

佐賀県高等学校 P T A 新聞

発行 佐賀県高等学校 P T A 連合会
佐賀市南佐賀 3-11-15
(佐賀県立佐賀東高等学校内)
電話 0952(29)2573
F A X 0952(26)5435
印刷 大同印刷株式会社

通常総会 令和7年度県連新役員が決定

佐賀県高等学校 P T A 連合会は 6 月 6 日 (金)、佐賀市の「グラ
ンデはぐくれ」で令和 7 年度「通常総会」を会員各位の出席のもと、
来賓に佐賀県教育委員会教育長・甲斐直美様をお迎えして開催した。
総会では、令和 6 年度の事業、決算・監査報告の後、役員改選を
行い、八年間の長きに渡り、県高等学校 P T A 連合会の発展に寄与
されてきた西岡豊前会長に代わり、新たに森田徹会長 (佐賀東高
校後援会会長) が就任した。その後、令和 7 年度の事業計画案、会計
予算案などを協議し、提案どおりに可決した。会の後半には、公益
財団法人日本 A E D 財団の理事である桐淵博氏をお招きし、「子ど
もたちの命を守るために」ASUKA モデルと小学校からの救命教
育の推進」の演題で講演を行った。



令和 7 年度 佐賀県高等学校 P T A 連合会新役員 (会長・副会長)



森田 徹 新会長

ご挨拶
このたび、令和 7 年 6 月の総
会にて御承認をいただき、佐賀
県高等学校 P T A 連合会会長を
仰せつかりました森田です。
微力ではありますが、座右の
銘にしております『開拓者精神
(フロンティアスピリッツ)』に
て拓けていけるように、役員一
同チームとして活動してまいり
ます。

家庭、学校、地域において子
どもたちの環境をより良くでき
るように頑張りたいと思います。
保護者と先生方がともに学び合

令和7年度 役員 の 皆さん

会長	森田 徹	佐賀東 会長	〇調査広報
副会長	川代 勇一	佐賀商 会長	〇調査広報
理事	西山 辰己	神埼清 会長	〇調査広報
〃	西山 辰己	北 学 会長	〇調査広報
〃	原口 哲哉	佐賀工 会長	〇調査広報
〃	小野 美香	致遠館 会長	〇調査広報
〃	宮園 幸香	佐賀西 会長	〇調査広報
〃	友田香将	鹿 島 会長	〇調査広報
〃	犬塚 直弘	敬 徳 会長	〇調査広報
〃	中西 裕一	唐津商 会長	〇調査広報
〃	小林 文彦	弘学館 会長	〇調査広報
〃	中西 裕一	唐津商 会長	〇調査広報
〃	犬塚 直弘	敬 徳 会長	〇調査広報
〃	多々島春喜	武 雄 会長	〇調査広報

議 事
一 令和 6 年度事業並びに決
算・監査報告
事業及び会務報告の後、決算・
監査の報告を行う。
収入 1517万1999円
支出 1348万4316円
差引 168万7683円
(次年度へ繰越)



講演「子どもたちの命を守るために」
桐淵 博氏

い、そして地域の皆さまと支え
合える P T A を目指して、一歩
ずつ前に進めていければと思
います。
これからも佐賀県高等学校 P
T A 連合会への御理解と御協力
をお願いいたします。

- 二 役員改選
会長に新しく森田徹氏が就
任。副会長、理事、監事共に左
表のとおり承認された。
三 令和 7 年度事業計画案・予
算案審議
事業については例年どおり、
佐高 P 連の地区別指導者研修会
を全地区 (5 地区) 開催予定で
準備を進め、新聞も 9 月と 1 月
の 2 回発行することとした。
主な事業計画は、次のとおりで
ある。
① 通常総会 6 月 6 日 (金)
「グランデはぐくれ」
② 第 69 回九州高 P 連大会
「沖繩大会」宜野湾市で開催
6 月 20 日 (金)
③ 第 74 回全国高 P 連大会
「三重大会」津市で開催
8 月 21 日 (木) ~ 22 日 (金)
④ 地区別指導者研修会
▽ 杵西地区 10 月 17 日 (金)
伊万里市民センター
▽ 三神地区 10 月 31 日 (金)
神崎市中央公民館
▽ 佐城地区 11 月 5 日 (水)
グランデはぐくれ
▽ 鹿藤地区 11 月 20 日 (木)
企業見学会
▽ 唐松地区 12 月 4 日 (木)
唐津市文化体育館



西岡 豊前会長に
有功者表彰状の贈呈

有功者表彰	香橋中・鳥橋	宮原美苗江
〃	三 養 基	鶴 恵美子
〃	小 城	中 村 涼子
〃	伊 万 里	原 祐 一郎
〃	武 雄	中 川 内 昇
〃	白 石	川 崎 博之
〃	高 志 館	谷 口 紀彦
〃	伊 万 里 実	前 田 良二
〃	佐 賀 農 業	孤 田 耕介
〃	鳥 栖 工 業	小 原 木 裕之
〃	鳥 工 (定)	井 上 三 明
〃	鳥 栖 商 業	古 村 克 則
〃	佐 賀 商 業	西 岡 豊
〃	牛 津	七 浦 奈 緒 美
〃	神 埼 清 明	岩 橋 信 明
〃	嬉 野	小 林 由 枝
〃	盲 学 校	世 戸 亜 希
〃	佐 賀 学 園	梶 原 紳 一
〃	敬 徳	幸 島 和 彦
〃	早 稻 田 佐 賀	向 谷 一
〃	神 埼	南 祐 司
〃	多 久 野	野 田 勝 人
〃	伊 万 里 実	前 田 良 二
〃	嬉 野	小 林 由 枝
〃	致 遠 館	野 中 千 寿 子
〃	牛 津	江 頭 か おり
〃	敬 徳	幸 島 和 彦
〃	北 陵	北 村 舞
〃	佐 賀 西	野 田 亮
〃	佐 賀 商 業	池 田 幸 宏
〃	龍 谷	吉 松 幸 宏
〃	神 埼	荒 木 信 幸
〃	多 久 野	大 島 安 博
〃	伊 万 里 実	牧 瀬 省 吾
〃	嬉 野	原 美 和
〃	神 埼 清 明	岩 橋 信 明
〃	唐 津 南	伊 東 和 美
〃	有 田 工 業	筒 井 槇 子
〃	顧 問	小 出 邦 彦

佐賀県高 P 連表彰 (敬称略)

学校の光景

4 月下旬、前後援会長さんに
「この 1 年、週に 1 回は会って
いましたよ。」と話しかけた
ら「いやあ、2 回ぐらいかなあ」と返事。佐工では保護者さんには無理せず可能な範囲で関わっていたらいいという雰囲気がある。しかし、前会長さんの場合、それ以外に運動部の 3 年保護者として部の活動を支えていただいた。国スポ・全国大会、遠征や土日の通常練習など言葉交わしたのは週 2 回を超えていたかもしれない。
週末の佐工のグラウンドは、例えば、ラグビーの場合、地元はもとより、関東・関西・沖縄など各地から保護者さんが練習等の応援に来校されることもある。
そんな時、部員のモチベーションは爆上がりである。
他の部活動、例えば、電気工事や木材加工、ロボット競技などの大会でも保護者さんと挨拶を交わすことがある。
試合や競技の前によく部員を激励するが、「自分のために」とか「指導者への恩返し」とかよりも「応援してくれた保護者等のみなさんのために」と言うときの反応が圧倒的にいい。
3 年 (定時制 4 年) 程の高校生活の間、親子には心で共有している目標や未来がある。週 2 回も会っていると、親子固有の思いに触れることもある。
今年もまた、地元や遠方の皆さんとの接点があることを有難く感じている。
佐賀工業高等学校
校長 原口 哲哉

文部科学 大臣表彰

令和7年度優良PTA文部科学大臣表彰を唐津工業高等学校PTAが受賞しました。これまでの熱心なPTA活動が評価され、全国高P連大会三重大会において表彰されました。



文部科学大臣表彰 (唐津工業)

九高P連佐賀大会分科会発表



PTA企業見学会の様子

後援会は、学校と密接な連携を保ち、教育に關し有力な助言をするなど、学校発展のために支援をしている。
九州・全国高等学校PTA連合大会にも後援会役員が参加し、また、体育祭・文化発表会では多くの評議員の方がバザーに参加するなど、保護者・生徒・

佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校後援会



教職員が一つとなった学校運営が展開されている。



小城高等学校PTA
前会長 中村 涼子氏

会員同士のつながりを第一に考え、強い責任感を持って会長や顧問といったそれぞれの立場で3年間務めた。
第68回九州地区高等学校PTA連合会熊本大会第2分科会にて県の代表として「全ての生徒が過ごしやすく、誰一人取り残さない学校づくりを目指して」をテーマに発表を行い参加者から高い評価を受けた。

優秀単P

佐賀女子高校
嬉野高校

功労者

中村 涼子 氏
世戸 亜希 氏

全国高P連表彰



盲学校PTA
前会長 世戸 亜希氏

PTA会長として10年の長きにわたり、幼児児童生徒そして保護者の願いを実現するために献身的に尽くした。視覚障害について学ぶPTA研修の推進や、よりよい支援を求めての行政への働きかけなど、そのリーダーシップと熱意はPTA会員の模範となった。

度賞者の横顔

嬉野高等学校PTA

PTAは、評議員会を中心に総務・生活・広報の3部会が、朝の挨拶運動、学校行事支援(体育祭、文化祭、マラソン大会など)、広報誌発行等の活動を積極的に展開し、生徒の健全な育成と学校運営に大きく貢献している。民主的な運営体制のもと、会員が意見を出し合い、主体的に活動している。また、PTA役員等は、九州・全国高等学校PTA連合大会に意欲的に参加しよりよいPTA活動につなげるよう研鑽を重ねている。



伊万里実業高等学校PTA
前会長 前田 良二氏

任期中、教育の充実と生徒の健全な育成を目的に、挨拶運動や広報誌発行、PTAバザー等、生徒の学校生活を見守りながら活動に尽力した。令和6年度には、杵西地区連絡協議会の会長として地区を取りまとめ、活気を与えつつ親睦を深めた。(前県連副会長・九州高P連健全育成委員)



嬉野高等学校PTA
前会長 小林 由枝氏

PTA組織を一本化した2年目となる年に就任し、まだ課題が残る中、会長として役員や評議員の意見を取り入れるため、意見交換の場づくりなど改善を図った。会議では会長として、自身の考えや信念を伝え、よいPTAの組織づくりに尽力した。(前県連副会長・九州高P連総務委員)

九高P連表彰

優秀単P

多久高校
唐津商業高校

功労者

前田 良二 氏
小林 由枝 氏

九州高P連表彰 広報紙コンクール

優良賞(2校)

佐賀西高等学校後援会

「薫楠」 ※10年連続入賞

三養基高等学校PTA

「三養基」 ※初入賞

佐賀県高P連広報紙コンクール
優秀賞(5校)

※九高P連広報紙コンクール県代表

佐賀西高等学校後援会

「薫楠」

三養基高等学校PTA

「三養基」

唐津西高等学校後援会

「まつら」

佐賀商業高等学校PTA

「大地」

佐賀商業高等学校後援会

「恒星」

審査員特別賞(1校)

盲学校

「Pica pica」

佐賀県参加校

・三養基 「三養基」

・神埼 「かちがらす」

・佐賀東 「東風」

・佐賀西 「薫楠」

・佐賀北 「朝の風」

唐津商業高等学校教育振興会

教育振興会は、体育祭での熱中症対策の支援を行い、文化祭では、開催前日にサプライズ企画として花火を打ち上げるなど思い出づくりに貢献した。冬のクラスマッチでは、豚汁振る舞



多久高等学校教育後援会

い会、朝の挨拶運動等を実施した。広報紙は年2回発行し情報共有に努めた。



学問の楽しさ Recurrent Education

2026年4月に開設予定の武雄アジア大学は、「学問の楽しさ」を届ける目的で一般向けの市民講座が開講されています。

大学開設までの期間は、大学での講座のイメージを持ってもらう目的でプレ講座が月1回程度実施されています。

参加無料、申込不要です。詳しくはQRコードでご確認ください。



令和6年度佐賀県高P連
広報紙コンクール受賞校

- ・致遠館 「飛躍」
- ・小城 「小城高校PTA新聞」
- ・唐津西 「まつら」
- ・伊万里 「笹尾台の風」
- ・武雄青陵中 「若葉」
- ・鹿島 「蒼天」
- ・太良 「蒼穹」
- ・高志館 「瀬の音」
- ・伊万里実業 「なご美」
- ・佐賀農 「大地」
- ・佐賀工 「かけはし」
- ・有田工 「有薫」
- ・鳥栖商 「飛翔」
- ・佐賀商 「恒星」
- ・唐津商 「桐庭」
- ・神埼清明 「生命」
- ・盲学校 「Pica pica」
- ・早稲田佐賀 「唐津の風」

シリーズ No40

頑張ってるわ!! 輝いてるわ!!

ものづくりから人づくりそして 地域づくりを目標して 北陵高等学校



北陵高校は、昭和30年4月に開校し、令和7年度（昭和100年）には70周年の節目を迎えます。令和6年度からは、リニューアル北陵高校として、電気情報科、建築デザイン科、交通サービス科、生活教養科の4学科に再編しました。さらに令和8年度には、時代の趨勢に応じた専門知識や技能を深めるため、eスポーツを取り入れたITコースをITシステム科へと拡大し、生活教養科を福祉・こども・フードの3コースに分け、専門教育の刷新と地域社会や産業界が望む人材育成に努めています。

そのような教育活動の中、保護者の後援会活動では10月・11月の体育大会・文化祭での後援会バザーや12月に保護者相互や教職員との親睦を深めるための県外等への研修会（30人程度）を実施するなど、保護者間や教職員との距離が近くなり、相互理解にも繋がっています。また、地域ボランティアとして、学期

生徒のニーズを汲んだ活動を！ 神埼清明高等学校

神埼清明高校PTAでは文化祭で全校生徒にカレーを提供するのが恒例でした。とても好評だったのですが、コロナウイルスのため飲食の提供を控えざるを得なくなりました。その間、熱中症対策を兼ね、文化祭ではプログラムを印刷したうちわを、体育祭ではタオルとスポーツドリンクを提供してきました。昨年から文化祭にキッチンカーを導入し、好評を得ました。全校ロードレースではついに豚汁の提供を再開することができました。（写真①）



今年度の清明祭では、PTA役員と生徒会執行部の懇談会を開き、生徒のニーズを聞くこととしました。そこで様々な要望



梅雨明けから行ったPTAあいさつ運動には役員を中心に都合のつく保護者に参加していただきました。登校してくる生徒と元気なあいさつを交わすことで、お互いに元気を分かち合いました。（写真③）

今後も生徒のニーズに合ったサポートに取り組んでいきます。

末毎に高木瀬地区の通学路清掃や独居老人宅への清掃ボランティア（草むしり、エアコン・窓掃除等）で地域貢献に寄与し、地域から応援され、なくてはならない学校を目指しています。



第69回九州地区高等学校PTA連合会大会 『語やびら』 沖縄大会（6月19・20日）

第69回九州地区高等学校PTA連合会大会『語やびら』沖縄大会は、6月19日（木）・20日（金）の2日間、那覇市内のホテルと宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開催され、佐賀県からは126名の参加がありました。

第1日目は、ホテルコレクティブにおいて、全体会、4委員会、理事会・総会を行った後、翌日の大会の運営打合せ会があり、森田会長を始め、県連の関係者が出席しました。

第2日目の午前中は、沖縄コンベンションセンターにおいて、3つの分科会が行われました。第1分科会では、厳木高等学校教育振興会の松田弘衣顧問（前会長）に「厳木高校生徒の活動を通して、厳木駅から始まる地域づくり」をテーマに発表をしていただきました。（4面参照）

午後は、沖縄県立前原高等学校の空手部によるアトラクションの後、開会式、記念講演、閉会式が行われました。



記念講演では、琉球大学教授の上間陽子先生から「沖縄の貧困とトラウマ」10代のママたちの施設おにわの事例から」という演題で講演がありました。



会実行委員長の挨拶などの開会行事が行われました。続いて表彰式が行われ、佐賀県からは唐津工業高等学校PTAが優良PTAとして文部科学大臣表彰を受賞しました。また、全国大会会長表彰の優秀単位PTAとして、嬉野高等学校PTAおよび佐賀女子高等学校後援会が表彰されました。さらに、功労者表彰では、小城高等学校PTAの中村涼子元会長と盲学校PTAの世戸亜希前会長が受賞されました。その後、4つの分科会が会場ごとに分かれて開催され、参加者はそれぞれのテーマに沿った内容に真剣に耳を傾け、熱心に学びを深めました。

第2日目の8月22日（金）は、映像放映によるアトラクションの後、井村屋グループ株式会社会長兼CEOである中島伸子さんによる記念講演が行われました。

閉会式では、来年度の開催県である大分県高等学校PTA連合会へ大会旗の引き継ぎが行われました。



第74回全国高P連大会 三重大会（8月21・22日）

第74回全国高P連三重大会は、8月21日（木）に、全国各地から約6千名の会員が参加し、津市の津市産業・スポーツセンターをメイン会場として開幕しました。

初日は、三重県立四日市商業高等学校ギター・マンドリン部による、会場を和やかな雰囲気

私の好きな言葉

「和顔愛語」



唐津商業高等学校校長

山下 哲司

私は、「和顔愛語」という言葉がとて好きです。和顔とは、穏やかで柔和な表情、他人を思いやる時のにこやかな顔つきのことです。愛語とは、相手を思いやる優しい言葉、慈しみの想いを込めて語る言葉です。この「和顔愛語」を実践すれば、ほとんどの場合、良好な人間関係を築くことができると思います。常に他人を受け入れる姿勢、他人を思いやる言葉を心掛けることで、自らが周囲の人から受け入れられ、認められる存在になることができ、自分だけでなく周囲の人と一緒に本当の幸せを味わうことができる機会を得られると信じています。このように、周囲の人を幸せにすることが自らの幸せにつながるということを専門高校である商業高校では、キャリア教育の一環で、「働くこと」について考えさせ確認しています。生徒達は、働く目的は、生業として職業に就き、生計を立てることだと理解しています。しかし、それだけではないことを伝えています。最も大切な働く目的は、「誰かのため、誰かの笑顔を見るため」であるということです。さらに別の表現でいうと、誰かの人生に関わり、その人にとって自分が良い記憶の中の一人でありたい、自分との良い思い出をたくさん作るのだと思います。

このことは、働いているほとんどの人から共感を得ることができるとは、間違いではないでしょうか。誰かのためにという目的を持つことのほうが、仕事は楽しいし、成果も大きいものが得られるからです。他人の幸せが自らの幸せになることを表していると思います。「和顔愛語」を実践することは、「働くこと」の目的を具体的に体感できる方法だと思っています。しかし、日々の生活において、和顔愛語を実践し続けることは、そう簡単なことではありません。私は今まで、思い通りにならない時、人間関係に悩む時、日頃の忙しさやストレスに追われ、苛立ち怒りを流せない時に、和やかな笑顔を保つことや優しい言葉をかけることができず、表情が硬くなり眉間にしわが寄り、周囲の人に近寄りがたい雰囲気を出してしまったりすることがあります。それは一度や二度ではありません。その結果、どんな視野が狭くなり、大局的視点に立った判断や行動がとれず、良好な人間関係を築くことができません。行き詰まったことがあります。周囲の人にとって自分が良い記憶の中の一人になれるはずがありません。そのような時、必要だとなつくづく思ったのが、「心のしなやかさ」です。「しなやか」とは、弾力があって曲がっても決して折れない柔軟性です。「心のしなやかさ」とは、揺らいでも必ず早期に立ち直る精神力・回復力、臨機応変様々な変化に対応できる心の芯の強さのことです。世の中がどんどん変わってきているとしても人と人をつなぐのは心です。「心のしなやかさ」を育むことで、「和顔愛語」を継続して実践することができ、良好な人間関係を築き、周りの人々と共に本当の意味での幸せをつかむことができると思います。

皆さん、「和顔愛語」を実践してみたいかがでしょうか。

九州地区高P連大会

「語やびら」沖縄大会(発表概要)

第1分科会

厳木高校生との活動を通して ～厳木駅から始まる地域づくり

佐賀県立厳木高等学校
教育振興会 松田 弘衣



1 厳木高校概要

厳木高校は「総合評価枠」と不登校経験がある生徒、発達障害のある生徒、高等学校中途退学者がチャレンジしやすい「重点評価枠」を設置し、少人数制の授業や高校における通級指導(SGT)など、様々な個性や特性を持つ生徒が活躍できる学校です。そのため、授業においても「学び直し」の基礎科目から、商業系の資格取得ができる科目、農業や地域での体験活動等の教養科目が選択でき、生徒の多様な興味関心に対応できるように工夫しています。中には、中学校でほとんど不登校だった生徒が本校で学び直し、学習への意欲を高め、四年制大学



厳木駅

学に合格するケースもあります。同じように県内外の企業に就職し、様々な場所で卒業生が活躍してくれています。

2 厳木駅活用プロジェクト始動
本校はJR厳木駅から歩いて三分。全校生徒の九割の生徒が電車通学をしています。JR厳木駅、実は明治三二年に開業された国内有数の木造駅舎で、さらに駅舎東側にあるレンガ造りの給水塔は大正末期に建設されたものが現存しており、駅舎と共に厳木の宝として守り続けた歴史の建造物です。

一方で古い建物のデメリットは寒いこと。しかも厳木駅の待合所は狭く、冬は凍える寒さの中、外で電車を待つ生徒がたくさんいました。

そしてそんな状況を変えたい！という生徒の一声から、生徒会を中心に、私たち教育振興会がサポートする「厳木駅活用プロジェクト」が令和5年5月にスタート。第一の目標は、待合所に併設している元ギャラリースペースを冬までに開放し寒さをしのげるようにすること。そのために、まずは厳木高校生と保護者、教職員向けにアンケートを実施することになりました。通常閉鎖されているギャラリー内を専門家と一緒に視察し、現状を踏まえアンケートを作成、結果をJR、県、市の各関係機関へ提出、報告しました。

令和8年度
しょうとうがくしゃ
松濤学舎
入舎生募集

英会が運営する
佐賀県ゆかりの
学生のための寮

新生活の
“ベースキャンプ”

松濤学舎の3つの強み

- “おいしい”をサポート
- “つながる”を育てる

募集人員 男子5名 / 女子7名 程度
月額寮費 72,100円 食費 26,100円 / 寮費 46,000円
朝食2食付(日曜・祝日も除く)
入舎時納入費 90,000円 入舎寄付金 / 施設維持費として
申込期間 令和8年1月上旬～2月中旬

詳しくはHPをご覧ください
https://www.shoutougakusya.com/

公益財団法人佐賀育英会
松濤学舎
2026年度は男女共学の完成年度
新たなスタートをきります！

〒184-0013 東京都小金井市原町3丁目3番28号
TEL: 042-381-3676 FAX: 042-381-3620
MAIL: nabeshima2021@iaa.itkeeper.ne.jp

8月下旬には、地元の任意団体主催の「厳木駅レトロな土曜夜市」に参加し、実際の駅活用を体験。その後徐々に、唐津市による公衆トイレの修繕や、JRによる元ギャラリー天井の雨漏りの修繕など、長年放置されていた駅環境に改善が見られるようになりました。

そんな中、佐賀県主催の企画コンテスト「企画甲子園」に厳木駅活用プロジェクトチームが初応募し、見事、審査員特別賞の「未来賞」を受賞しました。



3 地域との連携、無人駅活用を全国のロールモデルへ
新年度ごとに担当の先生や役員、関わる生徒も変わる中、「厳木駅活用プロジェクト」を伝統文化のように継続することは簡単ではありません。そこで昨年六月二日(むじん)を語呂合わせで「無人駅の日」と設定し、1人でも多くの生徒保護者に、厳木駅で楽しみながら活動に興味を持ってもらえるようイベントを開催しました。



初開催の「無人駅の日」は大盛況!

「無人駅の日」をきっかけに、現在は地域連携担当の先生の呼びかけで、新たに厳木駅活用プロジェクトチームが結成され、駅環境改善及び無人駅活用に向けたミーティングを重ねています。今後も「厳木駅活用プロジェクト」を継続し、いづれは無人駅活用のロールモデルになれたらと、大きな目標も掲げられています。多様な子ども達が集まる本校で、地域と連携したプログラムはとて大切な体験学習と捉えています。また、保護者が関わることで意欲も高まるなど、関わる生徒の自己肯定感を高めるきっかけにもなると考えています。

今後「厳木駅活用プロジェクト」に関わる生徒たちが活動を通じ、人と関わる楽しさや物事をやり遂げる喜びを感じてくれたらと願うと同時に、私たちも保護者として大人として、頑張る子ども達を見守り、背中を見せ、時に寄り添い、サポートできる存在でありたいです。